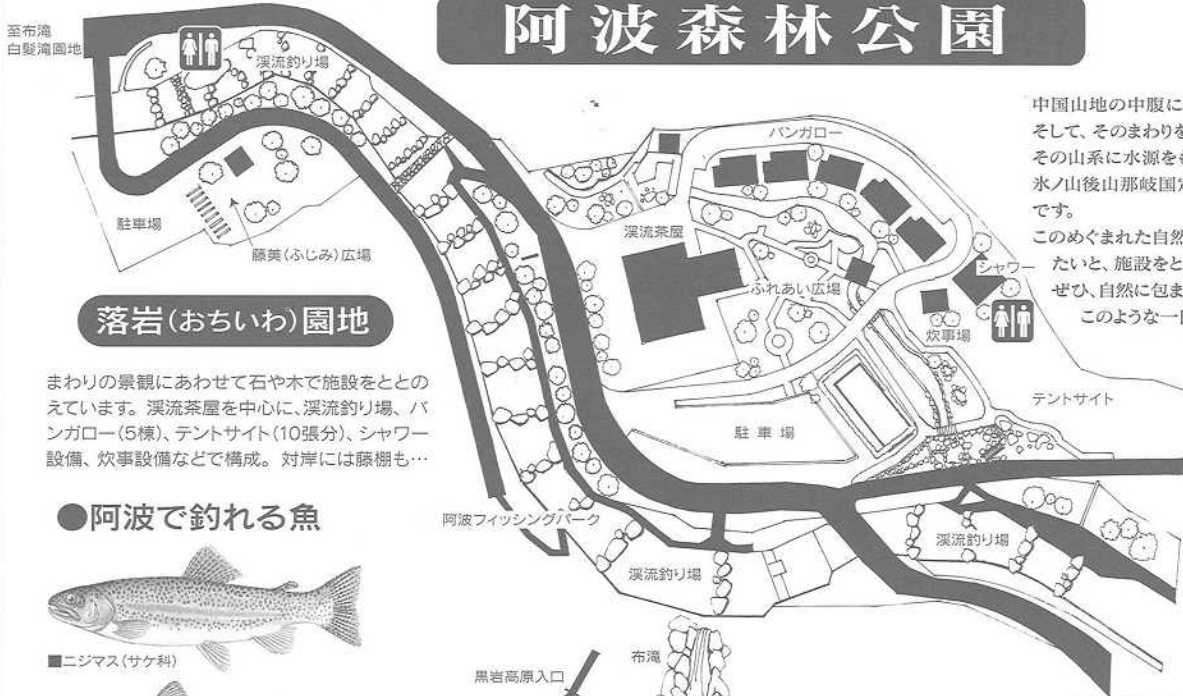


# 阿波森林公園



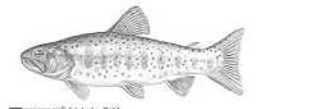
## 落岩(おちいわ)園地

まわりの景観にあわせて石や木で施設をととのえています。溪流茶屋を中心に、溪流釣り場、バンガロー(5棟)、テントサイト(10張分)、シャワー設備、炊事設備などで構成。対岸には藤棚も…

## ●阿波で釣れる魚



■ニジマス(サケ科)



■アマコ(サケ科)



■イワナ(サケ科)

## 布滝(のんだき)園地

布滝はもうまぢか。眼のまえに落合溪谷を見おろせる園地。あずまやに腰をおろして、滝音を耳にしながら、溪谷沿いの新緑、紅葉と四季それぞれの美しさにときを忘れて…

至屏風岩・落岩園地 黒岩高原遊歩道

## 阿波の滝

標高1,000メートル級の山々に囲まれた阿波には、布滝、白髪滝、大滝、観音滝の四つの滝がある。静寂の中に流れ落ちる水音に神聖さを感じて見の場所である。

### ■布滝(のんだき)

落合溪谷

黒岩高原一帯の水を集めて落合溪谷に流れ落ちる滝。50メートルの高さから10メートルほどの幅で流れ落ちる様子が布を晒しているように見えるところから布滝の名がある。この美しい姿は、かつてニュースステーションの日本の滝シリーズで紹介されたこともある。杉、松や広葉樹の下を激流となって流れ下り落合溪谷に出る。滝壺周辺はヤマボウシ、カエデが多く、新緑と紅葉の季節がとりわけ美しい。

### ■白髪滝(しらがたき)

落合溪谷

鳥取県境の山地が源流で、落合川の支流のひとつ、黒ナメラ谷の一角にある。白髪滝神社の鳥居をくぐると滝の前。正面の岩間を約15メートルの高さから老人の白髪のごとく幾筋にも流れ落ちている。滝の周囲はトチ、ケヤキ、スギなどの巨木に覆われて昼なお仄暗く幽玄ですらある。

### ■大滝(おおたき)

落合溪谷

黒岩高原に連なる県境一帯、通称大滝頭を水源として、玄武岩の峭壁を流れ落ちている落差約38メートルの滝。高所にありながらも滝幅は広く水量も多い。周囲はイタヤカエデ、トチ、ミズナラなどの自然林。玄武岩の柱状節理も見られる。

### ■観音滝(かんのんだき)

竹之下奥谷

鳥取県智頭町滝谷川の下流にかかる滝で、高さ10メートル、幅2メートルときわめて小さいながらも水量は豊富。臨濟禅寺・高福寺奥の院の滝で、滝の上には観音堂がある。

## 屏風岩(びょうぶいわ)園地



対岸の花崗岩壁が屏風に見えるところからこの名がある景勝の地。溪流釣り場、魚のつかみ取り、釣り堀のほか、捕れた魚を炭火焼きできる炊事場も…。お子さま連れに自然体験に最適です。

## おこうげ 大高下ふるさと村

### 大高下ふるさと村

昭和49年(1974)に、郷土の風物を開発から守るうと岡山県が指定した「ふるさと村」7ヵ所のひとつがこの「大高下ふるさと村」。

標高500メートルの大高下、大杉の2地区にまたがるエリアで、山あいには茅葺屋根が点在する山里の風景がひろがる。しかし、閉村当時30数棟あった茅葺屋根もいまは、わずかに数棟を残すのみとなってしまった。くらしの中から開戸裏が消えて、茅葺きの寿命が短くなってしまったのかその理由。とはいえ、道端には水車かまわり、まだまだ往時のくらしぶりをしのぶには十分な一面である。この地域は、本地師の里として栄え、また、金屋守、穴内(かんのうち)、金山、舟滝、タタラノ谷などタタラにかかわる字名が、まにに残り近世まで製鉄がおこなわれていたことがうかがえる。

### 伝統的な阿波の家

大屋根の中央前面を切り落して屋根裏に明りどりの窓をつけて、中二階の部屋を設けた、「赤木型」の民家(群馬県赤城山麓に多いことからこうよばれる)がみられ、かつて養蚕がりとなまっていたことがわかる。また、「カギマ」とよばれる、カギ型の間取りの家。牛・馬などの家畜小屋を組み込んだ構造で寒い土地柄ならではの工夫。家畜も家族の一員という愛情のあらわれてもあろうか…。



いまでは、その一部をとどめるだけとなってしまったが、林業の副産物として得られる杉皮を用いた杉皮葺きも、大畑地区では見られた。屋根に釘を用いず、川原などで集めた丸石を置く石置屋根も山村ならではの風物で、昭和30年代の前半頃までは多く見ることができた。また、茅葺き屋根の多かった頃には、大畑、大高下、西谷などの地区では共有の茅野を持っていて、それを用いて村人の手で屋根を葺きかえたものであったという。

## 阿波森林公園位置図



### 阿波森林公園エリア

金山園地

屏風岩園地

藤美園地

溪流茶屋

阿波フィッシングパーク

落岩園地

大高下ふるさと村

尾所の桜

津山市阿波支所

もえぎの里

至加茂・津山